

技能五輪
国際大会

師弟で挑む、世界標準の看護

ひなた 川澄 姫詩さん 山口 貴子さん

若者がさまざまな分野で磨いた技術を競う「技能五輪」。2年ごとに国際大会が開催され、9月22日に開幕する上海大会には、日本から57職種・64人が出場します。今回日本が初出場する「ヘルス&ソーシャルケア看護・介護」部門に、人間環境大学4年生の川澄姫詩さんが選ばれました。

優しい雰囲気をもとに、穏やかな笑顔が印象的な川澄さん。「出場が決まってから半年以上の間、たくさん課題に取り組み、動画を撮って振り返りながら練習しています。大会は英語で行われるので、通訳も入れますが、できるだけ患者さんに寄り添えるよう、英会話も学んでいます」と準備に余念がありません。

大会では、1日に約1時間の課題を3セット、それが4日間続きます。俳優が演じる患者に、課題に沿って声掛けや体調の確認・処置・心のケアなどを行います。援助を行う空間は、大勢の観衆に取り囲まれているので、ざわめきの中で患者に寄り添う集中力を維持しなければなりません。さらに患者が泣き出すなど、想定外の課題が組み込まれることも多いとのこと。川澄さんは「練習を重ねて、どんな状況でも自分らしい看護をしたいです」と話します。

大会には、審査員も世界から集まります。国内組織から推薦され、審査員「エキスパート」として参加するのは、同大学准教授の山口貴子さん。国内に経験者がいない中「未開の地を開いています」と笑いますが、海外の仲間に相談したり過去の問題を翻訳したりと準備は万端。評価方法を身に付け、学内の教員とともに川澄さんと練習を重ねています。

決められた時間内での課題完結が求められる世界大会。山口さんは「日本の細やかで丁寧なケアが世界に通用する自信はありますが、限られた時間の中で日本の看護を表現することが肝です」と話し、細部にまでこだわった練習を続けています。

今回のように基準に基づいて評価される機会は、看護学生に大きな励みになると山口さんは話します。上海の次の国際大会、会場は愛知県。出場を目指す学生が増え、腕を磨くきっかけになってほしいという願いも込めて、二人は全力で、上海への道を駆け抜けます。



▲大学で大会課題を練習する川澄さん

cover

スケートパークおおぶでBMX体験会を開催しました。参加したこどもたちは、基本的な乗り方から学び、徐々にレベルを上げた技にも挑戦。転んでも諦めずに挑戦し、みるみる上達する姿に、講師や保護者も驚きの声を上げていました。

